常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ

令和３年６月４日(金)
その２

◇ 中学校総合体育大会の中止 を受けて　思うこと

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、様々な形で我々の生活に影を落とし続けている。商売が成り立たないと嘆く大人の声は、メディアを通して連日のように報道されている。一方で、晴れない子供たちの胸の内が明らかにされることは極めて少ない。

察するに、中学生、特に３年生は、如何ともし難い現実を真摯に受け止めながら、言いたいことをぐっとこらえて【耐えている】【我慢している】。そうした環境下にあることを、我々大人たちが受け止めたいものである。

５月１５日に開催開始であった中学校総合体育大会は、同７日の本県に対する緊急事態宣言の発出により大会の中止を余儀なくされた。大会のたった８日前だ。

感染拡大の危惧と子供たちの安全を鑑みての対応である。

方針に誤りはないとはいえ、GW 明け、久しぶりに級友と顔を合わせて勇気を奮い立たせ、「さあ、ここからだ」と気合を入れたとたんの中止の知らせである。

まさに青天の霹靂だ。中学生の胸の内を察すると、語るに忍びない。

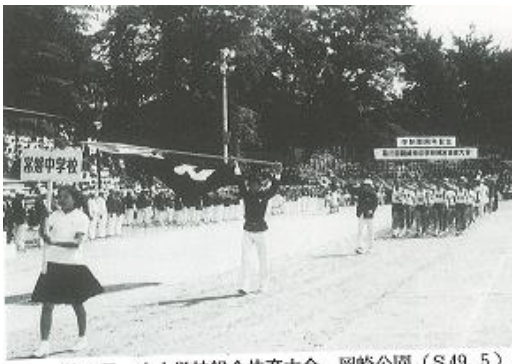
岡崎市の中学生にとって、「岡崎市中学校総合体育大会」は特別だ。市内の全生徒が様々な形で総体に参加する。大会の大軸・大柱・目玉は「総合開会式」と言い切っても憚らない。市内の全中学校が一堂に会する総体総合開会式は、全国的に見ても例を見ないからだ。

岡崎市の中学生は、選手団として、応援団として、混成音楽隊として、合唱隊として、アナウンスとしてなど、様々な立場で参加をする。この参加が感動をもたらし、思い出を綴るのだ。

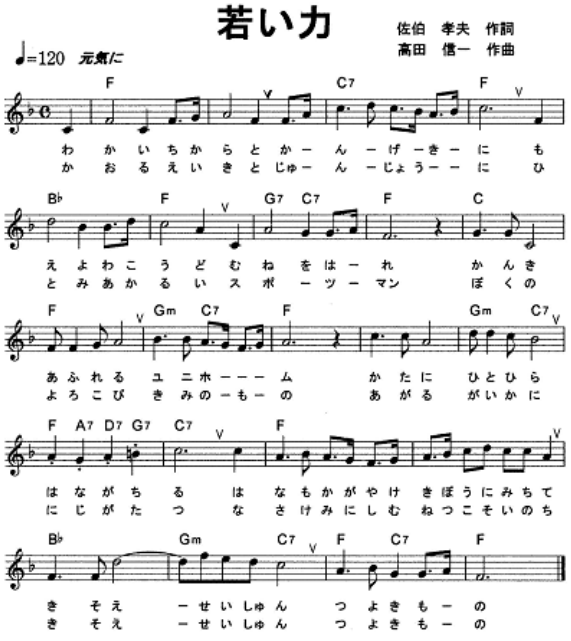
右写真は、常磐中学校の記念誌から拝借した。

第16回大会が昭和49年に開催されたとある。つまり総体は、昭和34年から続く、歴史と伝統のある大会なのだ。現在とは異なる大会会場は、観覧席があった頃の岡崎公園グラウンド。

ここで選手団を力の限りに応援し、「若い力」の音楽に乗って行進された方もみえることだろう。



第16回　市中学校総合体育大会　岡崎公園（S49.5）



総体行進曲のメインとなる「若い力」は、国民体育大会（国体）のために作られた楽曲である。

若い力と感激に　燃えよ若人　胸を張れ
歓喜溢れるユニフォーム　肩に一片花が散る
花も輝け希望に満ちて　競え青春強きもの

薫る英気と純情に　瞳明るいスポーツマン
僕の喜び君のもの　上がる凱歌に虹が立つ
情け身に染む熱こそ命　競え青春強きもの

歌詞は、総体に馴染む。だからこそ、腕振る指先にも力が入るのだ。

話を総体に戻そう。

会場は岡崎公園グラウンドから旧県営グラウンドに変更され、数年前から市民球場へ。さらに装いを新たにした龍北スタジアムで行われる予定であった開会式。それすら行えない現実が２年続いた。

２年続けての総体の中止により、現在の３年生は、２年前、部活動入部前に学校の応援団として市民球場の観客席で先輩を応援したこと（参加したこと）が総体の唯一の思い出となるわけで、１・２年生に至っては総体を目にしたことすらない。つまり、来年度以降に開催ができたとしても、全ての中学生が初めての経験となるわけだ。伝統を受け継ぐ機会を逸したことは痛手にもなるが、気持ちを切り替えて新生色を強く押し出していくしか無かろう。

こうした状況下にあっての救いは、緊急事態宣言の発出により、市内の感染状況が落ち着きを見せ始め、中学校３年生最後の大会となる「市長杯総合体育大会」が開催できる兆しが見えてきたことだ。常磐中学校の部活動も再開したとのこと。

「市長杯」が開催できるような状況になってくれることを祈るばかりである。

生活するにあたって制限の多い世の中ではあるが、学生に比べれば、大人はまだ少ないと言えるのかもしれない。

何しろ、跳んで、走って、投げて、楽器を演奏して、歌唱して、もの作りに励んで、研究（追究）して、関わり合って持てる力量を高めていくのが学生の生業なのである。

制約の中で子供たちが何一つ思う存分にできない現実があることを、我々大人が察して理解し、子供たちを支えるべく範を見せねばならない。